

発言内容			回答
1番	1	第一地区に防災公園をつくってほしい。	(市長)現在ある駅前公園、花時計公園を含めて、まちづくり全体の中で防災公園の整備は考えていきたい。
2番	1	中心市街地は、お城周辺の城下町、女鳥羽川南側の昭和期に区画整理した新市街地、イオンとあがたの森周辺の3つの核がある。一体的かつそれぞれの特色に合った仕掛けが必要。公共施設のコンセプトや交通システム(駐車場配置)も考えていけば魅力的な中心部になる。	(市長)城、駅、森の大きな3つの核のエリアトライアングルが松本の中心市街地という認識を持っている。イオンモールにはフリンジ駐車場といえる巨大駐車場があり、そこから街に入る形ができていいる。お城周辺は、堀の復元の他に、三の丸エリアビジョンに基づきエリアごとの活動がお城にふさわしいあり方で展開されている。駅周辺も各整備事業から50年経った歴史も踏まえ、有識者の提言を受けて青写真を提示したところです。 3つのそれぞれの立地条件、歴史的経緯を踏まえて進めていきたい。 ※フリンジ駐車場 中心市街地への自動車流入を抑制するため、その周辺に車を駐車し、公共交通や徒歩等で移動するための駐車場
3番	1	閉店したパルコについて、松本市はその後、株式会社やまきとの折衝はあるか。	(市長)松本市はやまきと直接交渉できる立場にないが、担当部局で連絡を受けて、状況は一定程度把握している。こちらからも問い合わせをして状況の確認もしている。 民間企業の経営方針の問題もあり、松本市で把握していることで伝えられるものは非常に限られている。できるだけ早くどのような施設をつくるのか公表していただきたいし、相手側にも伝えている。
4番	1	人口が維持できなければまちづくり自体ができなくなる。住民が住み続けるには生業が大切なように、箱ものではなく、ソフト面で人口流出を食い止めることが非常に大事だと思うので、よく考えてほしい。	(市長)城、駅、森のトライアングルの中には小中学校に通う子どもが一人もいないまちもある。何も手を打たないと、住んでも良いと思う人たちが住めなくなる。子どもたちの伝統行事は、松本の歴史を引き継いでいる街の存続のために続けていかなければいけない。 そのため、地域の人たちのつながりを町会を超えてつくることも市の立場でも進めつつある。えきしろ空間もそうした空間として公共的な公園道路の使い方を考えていきたい。
5番	1	松本駅周辺で若者が遊べるスペース、小中学生でも気軽に利用できるスポーツ施設があれば、若者が集まり、街を盛りあげることができると思うが、そうした計画はあるか。	(市長)球技や陸上競技の大きな施設を街中につくるのはあまり合理的ではないが、特に若い世代には街なかに集まってほしいとは我々も思っている。アーバンスポーツを中心にパブリックスペースを若い世代がスポーツに利用することは選択肢にいれなければいけない。 屋内でも若い世代により需要の高い用途の場所を積極的につくっていく必要がある。公共施設の部分もあるが、駅前などで民間資本が投資しようという時は、我々としても働きかけて促していきたい。 ※アーバンスポーツ 広い場所を必要とせず気軽に楽しめる都市型のスポーツ
6番	1	駐車場代が高いので安くできないか。	(市長)松本市としては、できるだけ中心市街地の中までは車でなくても移動ができ、より有効な土地の利活用をしていただけるような街づくりに取り組んでいきたい。イオンモール南西側のフリンジ駐車場が中心市街地の真ん中へ入る少し手前でせき止める形であり、駅のアルプス口側も駐車スペースを確保できないかという提言をいただいていて、取り組んでいけないといけないと思っている。駐車料金は地価と連動するので、周辺都市に比べて松本の料金が安いという部分は否めないと思う。公共施設、どういう活動をする方に駐車料金についてサービスしていくかは市として考えていけないといけない。
	2	図書館など文化施設を商業施設の跡地に移転して利便性を高めたらどうか。	(市長)文化的な公共施設の街中への移設については、本の収蔵や貸し出しに限らない多機能なもの、情報の媒体などを中心に広い世代の人たちが集える「図書館のようなもの」を街なかに設置したいと考えている。駅前をはじめとする民間施設の計画と連携していけるよう考えていきたい。
7番	1	旧開智学校の跡地の位置づけがなされていない。公園など何らかの形で整備すれば箱ものではない形で中心市街地の活性化を図れるのではないか。	(市長)中心市街地の再活性と言ったときに目が行き届いていませんでしたが、ご指摘をいただいたことを重く受け止めてどうことが考えられるか検討したい。

8番	1	井上とパルコが閉店しても人の流れはそんなに変わっていない印象がある。周辺の企業や店舗に調査するような計画はあるか。	(本部長)人の流れなどを調査したことは現時点ではない。今後、周辺の事業者からの聞き取りや人の流れを調べたりすることは必要だと思う。商工会議所が実施した調査結果の活用もできると思う。
9番	1	中心市街地に住人を増やしたいとの意見が先ほどあったが、固定資産税や駐車料金など生活するには金銭的な負担が大きい。	(市長)固定資産税と合わせて都市計画税を納めていただいている。中心市街地がそこに住む人の問題だけでなく、松本市全体のこれからの暮らしや人の移動といった話の上で重要であり、パルコや井上の閉店によって危機感が高まったことで市民全体で考えていただける機会になったと思う。中心市街地の住人が抱える問題も重く受け止めていきたい。
10番目 (オンライン)	1	新聞報道を見ていると自動車の流入抑制を柱とする街づくりという、車では近づけない、車で来ないでほしいというメッセージを受け取っていた。松本の中心市街地は、電車だけでなく、インターからも車でアクセスしやすいところが強みであると思うが、どう考えているか。	(市長)ご指摘は、専門家検討会議でも提言いただいていた、それをどうやって具現化していくかが大事だと思っている。城、駅、森のトライアングルの中には、そんなに車で来なくていい状況をつくり、できるだけ公共交通、自転車、徒歩というのが我々の目指すところ。そのためには、周辺までは車で来ていただき、車を止めやすいスペースがしっかりあるという状況とセットでなければ実現しないと思っている。新聞やテレビを通じて報道してもらう際は、そのことがちゃんと伝わるよう我々からきちんとした説明をしていくところが改めて大事だと思う。
11番	1	イオンに人が集中しすぎていることが、松本の人口減や衰退につながっていると考えている。地域外資本なので地元にお金還元されにくい。	(市長)イオンモールの一強状態が好ましいとは思っていないが、中町からイオンに向かう通りは活発化している。一強過ぎてはいけませんが、地域外資本の力も利用していく必要は当然あると思う。駅前の地域資本も連動するように積極的な店舗展開が進むことが目指すところ。
	2	歩く人を増やすためにインフラ整備が重要で、上高地線をLRTにすることを考えている。LRTは宇都宮市や富山県で実施されていて、かなりの経済成長の効果がえられる。インフラの整備で何か考えていることはあるか。	(市長)交通インフラでは、路線バスの廃止や大幅減便が地方で問題となっている中で、路線バスの公設民営の仕組みを2年前から取り入れた。5年間の契約で、路線を縮小することなく、利便性をあげる取り組みをやっている。 宇都宮市のLRTは利用者も増え、街が活性化している側面がある。上高地線もレトロなLRTのようにしていける可能性があると感じている。既存の鉄道とのつながりや、沿線の西部地域から何か展開できないかと個人的な希望にとどまるが感じている。
12番	1	駅前の企業が撤退した跡地に高層マンションが乱立している。働く人も減り、どんな街になるかだんだん分からなくなってしまい危惧している。	(市長)松本の場合は、アルプスとお城の景観が何よりもこの街の価値だと思っている。これらをどう守っていくかという大原則を大切にしながらマンションが建設されている。 駅の近くに一定程度マンション需要はまだあると思う。マンションは、働く人を確保していく、あるいはここに住む人を確保していくという観点から、一定程度必要だと思っている。 より広いエリアを踏まえうえて高層建築のあり方、規制は必要かという議論が出てくると思う。
13番	1	えきしろ空間において観光で人をさらに導くことが大切になるが、デザインコード(看板規制や色彩規制)は考えているか。	(本部長)松本市としても長いまちづくりの営みの中で、広告物の規制をかけたり、景観上のルールをつくってきた。私たちが大事に思っている山並みの眺望や文化などを将来に引き継げるようなルールづくりをやっていききたいと思っている。具体的なことはこれからだが、通りごとのルール、エリアの統一基準などを検討できればと思う。
	2	駅周辺の再開発のさらに50年先を見据えて、次世代がデザインに関われる学生による設計競技、コンペのような仕組みをつくってもらえたら良いと思う。	(市長)これからいろいろな施設がつくられていくうえで、次の世代の感性や、次の世代が主人公になって関わりもつことを意識していかなければいけないと思う。
14番	1	歩くことで再発見できることがたくさんあるが、体力や暑さなど難しい人もいる。一人乗りのモビリティが流行ってきていると感じているが、何か考えているか。	(本部長)いろいろなモビリティがあるが規制や高齢者が一人で利用できるかという問題がある。市としてはグリーンスローモビリティに合った交通手段、方法を考えていこうと思う。バスや鉄道に加えて大事な取り組みだと思っている。 (市長)中心市街地の道路の狭さは歩いて楽しめる要素でもある。先ほどのフリンジ駐車場の整備などで中心市街地への車の流入を少なくできたときに、手軽に便利に乗れるモビリティというものを、車が走れるほど大きな道がない松本だからこそ、取り入れていく認識を持たないといけないし、そうしたことに敏感でなければいけないと思う。ウォークアブルだということと同列線上で考えなければいけない指摘だと思う。 ※グリーンスローモビリティ 時速20km未満で公道を走る4人乗り以上の電動の移動手段

15番	1	図書館が街中にできることを期待していた。自習スペースも芸術館や博物館は満席。観光客だけでなく、地元の人が気軽に集まれる場所、若い人がもっと活発に活動できるような場所をつくってほしい。	(市長)多様で高次な施設として図書館的な機能を持つ居場所づくりを優先順位の高い課題として取り組んでいきたい。主役は市民であり、若い世代の人たちも気軽に立ち寄れるものがある施設でなければいけないと思っている。
	2	空き家も駐車場に変わってしまい中心市街地に住む人が減っている。駐車場配置にも気を配ってほしい。	(市長)ご指摘のケースが散見されるという現実がある。多くのケースは固定資産税分の最低限の収入確保としてとりあえず駐車場にしてい、積極的に駐車場にしているわけではない側面もあると思う。もっと訪れる人が増え、ここで暮らしができてもらえるような街の設計ができて賑わいが生まれてくれば、駐車場以外の活用で収益になるということに転換されてくる。そういう状況を皆さんと一緒ににつくってきたい。
16番	1	3～4年前に自転車の利用に関する調査があったと記憶しているがその後のフィードバックがない。自転車を気軽に置いて商店に入れる区域づくりは集客も見込めるので、街を整備する前に進めていけば良いと思う。	(市長)駅前大通りからあがたの森通りまでの緑化と自転車専用スペースの確保・改良を県と進めていて、その一環として話を聞くことがあったのではと推察するが、念頭にあったスピード感で進んでいない。駅前からあがたの森まで快適で安全に走れるようにすることが大きなテーマ。十分にフィードバックできる状態になっていないのは大変申し訳なく思う。 行きたい場所の目の前まで行けることが自転車を使う動機づけになる。小さな駐輪スペースをたくさんつくる方向性を庁内的には提起している。今年は小規模だが予算をつけて整備する。ウォーカブルな街は、セットで自転車が気軽に快適に使える街でもなければいけないと思う。まちづくりの重要なテーマの一つとして考えていきたい。
17番目 (オンライン)	1	街路樹が少なすぎる。自然を生かした街づくりと冒頭で言っていたが、松本市街は樹木が少なく、生かされていないと感じる。他の観光地などで樹木が多いところは、夏でも比較的歩きやすかったり、人が集いやすい。	(市長)街中に緑を増やすことが、松本市にとって非常に需要度が高いと思っている。現状、大都会と比べて緑が貧弱。一番の象徴は、松本駅からあがたの森までの大通り。ここをずっと歩いて楽しめる、憩える通りにしなければいけないとされていて、自転車の問題と合わせて、街路樹を増やすということも、県とともに大きなテーマとして取り組んでいる。一方で、話を進めるのにネックになっているのは、ムクドリと落ち葉の問題。ただ、ムクドリの問題と落ち葉の問題は樹種の選択などをもう少しきちんと進めていくことでクリアできそうなどころまで来ているので、早く実現しなければいけないと思っている。
18番	1	図書館、スポーツ活動、未就学児の遊ぶ場所としてパルコ跡地が一番だと考える。一部を市で借りて、こうした利用に供する余地はあるか。	(市長)パルコの後利用については、民間企業が全館を運営するということで話が進んでいる。ご指摘のような状況が仮に起きたときにどう対応できるのか、する必要があるのかという問題意識は持っている必要があると思っている。
	2	脱炭素の観点で、高速バスのバスターミナルを松本駅のアルプス口に移動するように市から提言してはどうか。	(市長)高速バスの発着は、インターチェンジの場所、そしてアルプス口は通りの拡幅を考慮すると合理的だと思う。アルピコ交通の総合的な判断によるが、我々としてもアルピコ交通に希望を伝えていきたい。
19番	1	パルコと井上が閉店して今まで以上に若い人がイオンモールに集まっている。意見の共有の場、交流の場として、公園に集まったり、ワークショップを開いたり、施設を建てたりと目の向け方は複数あるが、どのように考えているか。	(市長)イオンモールだけが人の集まる場所になるような傾向が強まることを是正することは中心市街地の再設計の一番のポイント。お城や駅の周辺にも若い世代あるいは市民の皆さんが集まる空間を活性化させてくことが重要で、将来に向けてしっかり取り組んでいかなければいけない。 今年から若者参画課を立ち上げた。高校生や大学生たちがまちづくりに参加してもらい、意見を寄せてもらう機会を必ず増やしていく。みなさんも仲間を募って参加してほしい。